

ノルウェーの暮らしと 修士留学の紹介

埼玉親善大使レポート⑥ 2022年4・5月分

オスロ大学修士課程
特別支援教育専攻
河村晏奈

4月はイースター、5月はノルウェーのナショナルデーなど、イベントやお祝い事が多い2か月間でした。雪の降る日もありましたが、だんだんと新芽が顔を出し景色は春色に。ぐんと日照時間も延びて、人々の気分も高まる季節。なんとオスロでも桜を見ることができました。そんな素敵な春の様子を紹介したいと思います。



イースターとは、キリスト教における「復活祭」のことでノルウェー語では Påske(ポースケ)といいます。日付は毎年変わりますが、今年は、学校は4月11日から18日までがイースター休暇でした。お店もイースター当日やその前後を含め、5日間くらい閉まります。お花屋さんや雑貨屋さんにはイースター色に染まり、インテリア等を黄色にするそうです。お菓子屋さんではイースターエッグが売られ、大人たちはこの殻の中にチョコレートやキャンディーを詰めて子どもにあげるそう。子どもたちは卵の殻に色を塗ってイースターエッグを作るのが定番で、学生は実家に帰ったり、家族が所有している Hytta(山小屋のような別荘)に行ってシーズン最後のスキーを楽しんだりするそうです。



イースター宗教的に大切なイベントですが、国によって習慣が違ふようです。ノルウェー人々は、イースターの時期に犯罪小説やドラマにハマります。犯罪小説を読み、テレビでは毎日々話ずつ犯罪ドラマが流れ、ラジオで昔から続く犯罪ストーリーを聞く人もいます。イースター仕様になった牛乳のパッケージの側面はかわいいミステリー漫画になっていました。



ヨーロッパでは3月27日からサマータイムが始まりました。通常は日本との時差が8時間のところ、サマータイム期間中(10月30日まで)は時差が7時間になります。アイス販売の車(isbilen)は、日本の石焼き芋の販売車のように音楽を流しながら走っています。ノルウェー人はアイスが大好きです。オスロではとっても日が延びて、朝も夜も明るく、夜中も完全には真っ暗にならない状態です。6月まではまだまだ日が延びていきます。



4月末、急に暖かくなって分厚いダウンジャケットは要らなくなり、ぐんと緑が増えたオスロ。街の所々にある桜が満開になっていました。



曇って少し肌寒い日もありますが、温かい日は公園や海沿いのベンチ、レストランのテラス席に人が溢れています。大学でも、授業の合間に外に出て日光浴する人が多く見られます。



5月17日はノルウェーの憲法記念日です。ノルウェーでは1814年5月17日に憲法が制定され、ナショナルデーとして祝われています。この日のお祝いは子どもたち中心に行なわれるのが特徴で、お昼過ぎまで子どもたちによるパレード(barnetog)があります。多くの人が出身地によって色や刺繍が異なる民族衣装のブーナッド(Bunad)を着ていて、とってもすてきでした。コロナの影響で過去2年は普段通りのお祝いができず、今年は格段に特別な日だったそうです。私はその日、友人たちと朝食を食べ、王宮でパレードを見たあとコーラスを聴きに行くという、典型的なお祝いの仕方を楽しみました。

オスロでは130の学校の約6万人の子どもたちがメイン通りのKarl Johans gateから王宮まで、それぞれの学校の旗とブラスバンドを先頭に、ノルウェー国旗を手に持ち行進します。王宮ではロイヤルファミリーがバルコニーから手を振っていました。

